

大学生における「マンガ」「アニメ」「活字本」の 利用状況の基本調査 その2

小池 庸生¹⁾

Basic Research on Student' Use of "Manga", "Animation Movies", "Books": Part 2

Nobuo Koike¹⁾

Abstract

This research presents the second report after the previous one (Koike, 2014). In this research, I focus on students who like "reading manga," "watching animation movies," and "reading books," and pick up titles of "manga, animation movies, and books," then investigate the trend. Looking at the results, the mean value on "like reading manga" was 3.93, "like watching animation movies" was 3.41, and "like reading books" was 3.03, which was similar to first report. I divided the students into groups of "like reading manga," "like watching animation," "like reading books" and "dislike" based on the questionnaire, and I examined each of the mean value and the average reaction number of articles. I found that the students in the group, who "like reading manga" like to watch animation, the students in the group, who "like watching animation" like to read manga, and the students in the group, who "like reading books" are like to read manga and to watch animation. I found that the students in the group, who "dislike" were aware of the other - "not said either way" or "does not apply so much." I found that in terms of students at university and college, there are about 70% of those who like "to read manga," about 50% of those who like "to watch animation," and about 40% of those who like "to read books."

Key words : manga, animation, book, reaction number of articles

キーワード : マンガ, アニメ, 活字本, 作品反応数

1. はじめに

数年前より、日本の「マンガ」が世界中で話題になってきている。さまざまなキャラクターが話題となり、コスプレに走るマニアもいるくらいに流行してきている。当然ながら日本国内でも

1) 育英短期大学現代コミュニケーション学科

同様の傾向があると思われる。少年向けのコミック雑誌、少女向けのコミック雑誌、青年向けのコミック雑誌など毎月100以上のマンガ雑誌が発行されている。さらには雑誌連載されているマンガの単行本も次々と発行されている。「マンガ」が日本の大衆文化の最先端を進んでいるといっても過言ではないかもしれない。当然若者の文化に「マンガ」は欠かせないものとなってきているだろう。「このマンガがすごい」という本が2007年から出版され、その年に話題となったマンガをオトコ編とオンナ編に分けてランキングしている。現在2016年版が出版されて10年間続いており、どのマンガを読もうかと考える人たちのマーカー本となっている。今回の調査データを収集した2014年4月と2015年4月の時点で話題となったマンガを2014年版（調査期間：2012年10月～2013年9月）と2015年版（調査期間：2013年10月～2014年9月）からオトコ編・オンナ編各上位5作品ずつ挙げてみると次のようになっている。2014年版のオトコ編が「暗殺教室」「坂本ですが?」「亜人」「重版出来!」「七つの大罪」、オンナ編が「さよならソルシエ」「ときめきトゥナイト真壁俊の事情」「月影ベイベ」「日々蝶々」「かくかくしかじか」であり、2015年版のオトコ編が「聲の形」「魔法使いの嫁」「子供はわかってあげない」「いちえふ」「あれよ星屑」、オンナ編が「ちーちゃんはちょっと足りない」「東京タラレバ娘」「ベルサイユのばら」「私りがもててどうすんだ」「月刊少女野崎くん」であった。

上記20作品のうち、映像化・アニメ化されたあるいは計画されているのは「暗殺教室」「亜人」「七つの大罪」「ときめきトゥナイト」「聲の形」「ベルサイユのばら」「月刊少女野崎くん」の7つである。テレビアニメ化や映画化されるだけでなく、動画化されるものもある。マンガだけでなく小説なども映像化されており、「ディズニー作品」や「ジブリ作品」などがその筆頭にあげられるであろう。2014年3月に公開された「アナと雪の女王」はその典型的なものであり、アニメ化もマンガと同様に日本の若者文化を支えていると考えられる。このようにマンガや小説のアニメ化や映像化は、教育場面も含めたさまざまなところで活用されていくようになるであろう。スマートフォンやタブレット端末による映像化による情報提供は、提供される側にとってはとてもわかりやすく、受け入れやすいことはよく言われているので、教育場面でも進んで取り入れられている。しかし、これらの情報が文字情報による入力よりも優れているという証拠ははっきりとはしていない。これからの研究課題の一つであろう。今のところでは、映像情報と文字情報の両方をうまく使っていくことが大切であると考えられる。

一方で、文字情報の典型であると思われる「活字のみで書かれた本」（以後活字本とする）の出版は低迷しているといわれている。芥川賞や直木賞など有名な文芸賞があり、毎年受賞者のことが話題になっているけれども、その発行部数や売れ行きなどはそれほど芳しくなく、低迷の象徴のようにいわれている。2015年お笑い芸人の又吉直樹氏が「火花」で第153回芥川賞を受賞して話題となり、多少は持ち直してきているようである。しかし、若者の活字本離れはスマートフォンやタブレット端末の浸透により加速されているように思われる。どちらか一方にだけ偏るのではなく、両方をうまく使っていけるようになっていくことがこれからの課題であろう。

小池（2014）は、2013年4月に大学・短大の学生に「マンガ」「アニメ」「活字本」のそれぞれについて「読む（見る）のが好きか」「好きな作品があるか」「好きな作家がいるか」「好きな単行本があるか」「好きな雑誌があるか」「雑誌を毎週読んでいるか」「活字本を月に1冊以上読むか」を5段階で評定（1：全く当てはまらない～5：とても当てはまる）するよう求め、さらに「過

去3年間で読んだものの題名を3つあげてください」と尋ねた。その結果、「マンガを読むのが好き」の平均評定 (SD) は3.77 (1.29)、「アニメを見るのが好き」の平均評定 (SD) は3.35 (1.32)、「活字本を読むのが好き」の平均評定 (SD) は2.91 (1.32) であった。大学・短大の学生は、「マンガを読む」のも「アニメを見る」のもどちらかと言えば好きであると認識しているが、「活字本を読む」のは好き嫌いのどちらでもないとしていた。挙げられた作品についても、「マンガ」では反応総数が1,410個、作品総数が330件であり、「アニメ」では反応総数が1420個、作品総数が266件であり、「活字本」では反応総数が984個、作品総数が551件であった。「マンガ」と「アニメ」の作品数に60件ほど差があったが、反応総数は1,410件と1,420件とほぼ同じであること、「活字本」の反応総数が400個ほど少ないことから、「マンガを読む」ことが好きであり、「アニメを見ること」が好きであり、「活字本を読む」ことは好きでも嫌いでもないことを示していると考えた。これらの調査を数年間の継続調査が必要であることも述べていた。

本研究は、小池 (2014) の調査を踏まえて、さらに大学・短大の学生が「マンガを読むこと」「アニメを見ること」「活字本を読むこと」をどれだけ好んでいると認識しているのかについて調査して、2013年度との比較をしてみることで、学生の活字離れの実態、「マンガ」「アニメ」と「活字本」の関係性についての基礎データを収集することを目的として行った。

2. 方 法

1) 調査対象者：調査は、2014年と2015年の4月にT大学とI短期大学で行われた。対象学生は、2014年が654名(男性204名、女性450名)、2015年が485名(男性175名、女性310名)、全部で1,139名(男性379名、女性760名)であった。全体の平均年齢は18.76歳 (SD=0.737) であり、男子の平均年齢は19.02歳 (SD=0.921)、女子の平均年齢は18.63歳 (SD=0.583) であった。

2) 手続き：2014年と2015年のいずれも次のような質問紙を与えてに回答してもらうという手続きで行った。

第1部では、以下のような質問を基本として、「マンガ・アニメ・活字本」について尋ねた。

- 1 読む(見る)のが好きである。
- 2 好きな作品がある。
- 3 好きな作家がいる。
- 4 好きな1冊ものがある。
- 5 好きな雑誌がある。
- 6 毎週読んでいる(見ている)。

質問はそれぞれについて6つずつ、全部で以下の通りの18問となる。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 質問① マンガを読むのが好きである。 | 質問② 好きなマンガの作品がある。 |
| 質問③ 好きなマンガの作家がいる。 | 質問④ 好きなマンガ本(単行本)がある。 |
| 質問⑤ 好きなマンガ雑誌がある。 | 質問⑥ マンガ雑誌を毎週読んでいる。 |
| 質問⑦ アニメを見るのが好きである。 | 質問⑧ 好きなアニメの作品がある。 |
| 質問⑨ 好きなアニメの作家がいる。 | 質問⑩ 好きなアニメ本(単行本)がある。 |
| 質問⑪ 好きなアニメ雑誌がある。 | 質問⑫ アニメ雑誌を毎週読んでいる。 |
| 質問⑬ 活字本を読むのが好きである。 | 質問⑭ 好きな活字本の作品がある。 |
| 質問⑮ 好きな活字本の作者がいる。 | 質問⑯ 好きな活字本雑誌がある。 |
| 質問⑰ 活字本雑誌を毎週読んでいる。 | 質問⑱ 活字本を月に1冊以上読む。 |

これらの質問に、自分自身がどれだけあてはまるかを「1：まったくあてはまらない」「2：あ

まりあてはまらない」「3：どちらともいえない」「4：かなりあてはまる」「5：とてもあてはまる」の5段階で評定をしてもらった。

第2部は、「マンガ・アニメ・活字本」それぞれについて、2014年度は「過去3年間で読んだものの題名と作者を3つあげてください」、2015年度は「過去3年間で読んだものの題名と作者を5つあげてください」として、作品名と作者を書いてもらった。15年度に5つとした理由は、沢山あって書き切れないという要望が複数あったため、2つ増やして5つとした。

調査は、2014年と2015年のいずれも4月にそれぞれの大学・短期大学において、第1回目の授業時に行った。

3. 結果と考察

第1部のアンケート調査の評定結果は、2014年度と2015年度を一緒に集計し、表1のようになった。

表1 質問項目ごとの全体・男女別の平均と標準偏差（SD）

		全 体			男 性			女 性		
		M	SD	N	M	SD	N	M	SD	N
マ ン ガ	Q 1	3.93	1.224	1139	4.20	1.099	379	3.80	1.261	760
	Q 2	3.96	1.338	1139	4.31	1.122	379	3.79	1.401	760
	Q 3	2.98	1.482	1139	3.24	1.382	379	2.85	1.513	760
	Q 4	3.76	1.455	1139	4.23	1.149	379	3.52	1.533	760
	Q 5	2.49	1.459	1139	3.12	1.488	379	2.17	1.335	760
	Q 6	1.79	1.296	1139	2.41	1.590	379	1.47	0.982	760
ア ニ メ	Q 7	3.41	1.321	1139	3.57	1.248	379	3.33	1.349	760
	Q 8	3.57	1.425	1139	3.76	1.317	379	3.48	1.467	760
	Q 9	2.30	1.312	1139	2.49	1.292	379	2.20	1.311	760
	Q10	2.22	1.398	1139	2.53	1.437	379	2.06	1.351	760
	Q11	1.71	1.108	1139	1.98	1.198	379	1.58	1.035	760
	Q12	1.43	0.924	1139	1.68	1.119	379	1.30	0.780	760
活 字 本	Q13	3.03	1.346	1139	3.35	1.154	379	2.87	1.404	760
	Q14	3.00	1.52	1139	3.34	1.369	379	2.83	1.565	760
	Q15	2.65	1.542	1139	3.01	1.435	379	2.47	1.562	760
	Q16	1.63	1.033	1139	1.91	1.216	379	1.49	0.896	760
	Q17	1.39	0.876	1139	1.63	1.130	379	1.27	0.685	760
	Q18	2.14	1.359	1139	2.49	1.413	379	1.96	1.295	760
年 齢		18.76	0.737	1139	19.02	0.921	379	18.63	0.583	760

各質問項目の平均評定ポイントは、「マンガ」についての質問を見ると、①「マンガを読むのが好きである」では、全体が3.93、女性が3.80、男性が4.20、②「好きなマンガの作品がある」では、全体が3.96、女性が3.79、男性4.31、③「好きなマンガの作家がいる」では、全体が2.98、女性が2.85、男性が3.24、④「好きなマンガ本（単行本）がある」では、全体が3.76、女性が3.52、男性が4.23、⑤「好きなマンガ雑誌がある」では、全体が2.49、女性が2.17、男性が3.12、⑥「マンガ雑誌を毎週読んでいる」では、全体が1.79、女性が1.47、男性が2.41であった。「好きである」という評価が「どちらでもない」という評価よりも高く評価されたのは、全体では①「読むのが好きだ」、②「好きな作品がある」、④「好きな本（単行本）がある」の3つであった。女性と男性それぞれで見ると、女性は、全体と同じく①「読むのが好きだ」、②「好きな作品がある」、④「好きな本（単行本）がある」の3つである。しかし、男性は、⑥「マンガ雑誌を毎週読んでいる」以外の質問項目すべてが3ポイント以上であった。全体の結果は、調査に参加した男女比が大きく影響しているのかもしれない。大学・短大の女子学生は、「マンガを読むのが好きであり、好きなマンガ作品があり、好きなマンガ本（単行本）があるが、好きなマンガ雑誌がはっきりとあるわけではなく、毎週のようにマンガ雑誌を見ているわけではない」ことが推測される。一方、大学・短大の男子学生は、「マンガを読むのが好きで、好きなマンガ作品があり、好きなマンガ本（単行本）があり、好きなマンガ雑誌があるけれども、毎週マンガ雑誌を読んでいるわけではない」ということが推測される。

「アニメ」についての質問を見ると、⑦「アニメを見るのが好きである」では、全体が3.41、女性が3.33、男性が3.57、⑧「好きなアニメの作品がある」では、全体が3.57、女性が3.48、男性3.76、⑨「好きなアニメの作家がいる」では、全体が2.30、女性が2.20、男性が2.49、⑩「好きなアニメ本（単行本）がある」では、全体が2.22、女性が2.06、男性が2.53、⑪「好きなアニメ雑誌がある」では、全体が1.71、女性が1.58、男性が1.98、⑫「アニメ雑誌を毎週読んでいる」では、全体が1.43、女性が1.30、男性が1.68であった。評価が3ポイント以上のものは、全体・女性・男性のいずれも⑦「アニメを見るのが好き」と⑧の「好きなアニメの作品がある」の2つであった。大学・短大の学生は男女とも、「アニメを見るのが好きで、好きな作品がある」と言うことが推測される。

「活字本」についての質問を見ると、⑬「活字本を読むのが好きである」では、全体が3.03、女性が2.87、男性が3.35、⑭「好きな活字本の作品がある」では、全体が3.00、女性が2.47、男性が3.34、⑮「好きな活字本の作家がいる」では、全体が2.65、女性が2.47、男性が3.01、⑯「好きな活字本雑誌がある」では、全体が1.63、女性が1.49、男性が1.91、⑰「活字本雑誌を毎週読んでいる」では、全体が1.36、女性が1.27、男性が1.63、⑱「活字本を月に1冊以上読む」では、全体が2.14、女性が1.96、男性が2.49であった。評価が3ポイント以上のものは、全体では⑬⑭に加えて⑮「好きな活字本の作家がいる」の3つであった。女性ではいずれの質問項目も3ポイント未満であった。全体的には「活字本を読むことや好きな作品があることは、好きでもないし嫌いでもない（どちらでもない）」ということが推測される。男性は「活字本を読むことがまあまあ好きであり、どちらかという好きな作品あるが、これといった好きな作家はいるわけでもない」ことが推測される。女性は「活字本に関しては、すべてにおいてあまり関心が無い傾向にある」

ということが推測される。

以上のことから、大学・短大の学生は男女を問わず、「マンガ」を読むことや「アニメ」を見るのが好きであり、好きな作品があることがわかる。「活字本」に関しては、好き嫌いのどちらでもないことがわかる。⑥と⑰の「雑誌を毎週読んでいる」の質問には、⑥の男性が2ポイント台だけで、他はすべて1ポイント台となっていることから、「マンガ」や「アニメ」「活字本」を読むことは嫌いではないけれども、それほど沢山は読まないという推測ができ、ある意味での活字離れを表現しているものと考えられる。

小池（2014）の結果と比較してみる。「マンガ」に関してみると、質問①から質問⑤まででは、全体・女性・男性のいずれにおいても評価ポイントは0.1～0.2ポイント上昇している。質問⑥では、全体で変化がなく、女性では0.08ポイント下降し、男性では0.05ポイント上昇している。「アニメ」に関してみると、全体と男性ではいずれの質問とも0.1～0.2ポイント上昇が見られ、女性では、質問⑧⑨⑩⑪で0.1ポイント程度の上昇が見られた。「活字本」に関してみると、全体ではすべての質問に0.1程の上昇が見られ、女性ではすべての質問でほぼ同じ、男性では質問⑬⑮⑰⑱で0.1～0.3ポイントの上昇が見られた。以上のことから、「マンガ」「アニメ」のいずれに関しても、ほぼ同じ結果であるといえる。「活字本」に関しては、男性の質問⑬が0.32ポイントの上昇、質問⑱が0.27ポイントの上昇を示していることから、活字離れの傾向が少し薄れてきたのかもしれない。しかし、全体的な傾向としては、2013年度の結果である「マンガやアニメを好み、活字本をそれほど読まないこと」が支持されている。社会的な課題としても挙げられているように、「活字本」への興味関心をどのように持たせるのかを考えていく必要があると思われる。

表2 マンガ作品の題名と反応数

No.	題名	反応数	反応率(%)
1	ワンピース	206	6.04
2	アオハライド	164	4.81
3	進撃の巨人	143	4.19
4	ストロボ・エッジ	115	3.37
5	君に届け	105	3.08
6	ナルト	86	2.52
7	黒子のバスケ	66	1.93
8	ダイヤのA	54	1.58
9	銀魂	54	1.58
10	名探偵コナン	50	1.46
11	スラムダンク	49	1.44
12	ハイキュー!	46	1.35
13	今日、恋をはじめます	45	1.32
14	鋼の錬金術師	44	1.29
15	僕等がいた	41	1.20
総反応数		3,413	
総作品数		612	

第2部のアンケート調査結果の一部を表2～表4に示す。表2は、反応数が上位15位までの「マンガ作品の題名と反応数」を示している。「マンガ」についてしてみると、全体で上げられた作品数（以下総反応数とする）は3,413作品で、実際の作品数（以下総作品数とする）は612作品であった。調査対象者が1,139人であるから、一人平均3.0作品を挙げていることになる。上位15作品で反応率は約36%と全体の3分の1強を占めている。第1位の「ワンピース」は、小池（2014）の調査でも第1位であったが、その時は第2位の反応数の2倍強を示していたが、今回はそれほどの差を示していない。その時々の人気を示していると思われ、2013年ほどの人気ではないが、まだまだ高い人気と支持率を示していると思われる。第3位の「進撃の巨人」と第12位の「ハイキュー！」以外は、いずれも小池（2014）の調査で出現しており、2013年から2015年まで人気が続いている「マンガ」であると考えられる。「進撃の巨人」と「ハイキュー！」は、次の「アニメ」の結果でも出てくるので、「アニメ化」が影響を及ぼしているのかもしれない。実際に、上位15位のマンガはいずれも「アニメ化」がされており、その相乗効果があると考えられる。

表3 最近見たアニメ作品の反応数

No.	題名	反応数	反応率(%)
1	ワンピース	170	5.34
2	ドラえもん	150	4.72
3	名探偵コナン	132	4.15
4	クレヨンしんちゃん	123	3.87
5	サザエさん	117	3.68
6	ちびまる子ちゃん	91	2.86
7	塔の上のラプンツェル	87	2.73
8	アナと雪の女王	85	2.67
9	進撃の巨人	81	2.73
10	アンパンマン	57	1.79
11	ナルト	54	1.70
12	銀魂	49	1.54
13	モンスターズインク	43	1.35
14	トイストーリー	42	1.32
15	ハイキュー！	38	1.19
総反応数		3,181	
総作品数		432	

表3は、反応数が上位15位までの「アニメ作品の題名と反応数」を示している。「アニメ」についてしてみると、総反応数は3,181作品で、総作品数は432作品であった。調査対象者が1,139人であるから、一人平均2.8作品を挙げていることになる。上位15作品で反応率は約41%を占めている。「マンガ」と同様の反応があると思われるが、「マンガ」以上にある作品に集中する傾向があると思われる。「ワンピース」「名探偵コナン」「進撃の巨人」「ナルト」「銀魂」「ハイキュー！」等は、いずれも「マンガ」で上位を占めており、「マンガ」と「アニメ化」の相乗効果を現していると思われる。もともと「マンガ」が原作であると思われる「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」「サ

ザエさん」「ちびまる子ちゃん」「アンパンマン」は、幼児期からテレビ放送で見てきていたということも影響をして、現在でもよく見られていると考えられる。「アニメ」では、テレビ放送だけでなく、映画によるものもあり、その中で、ディズニーアニメが上位15位の中に4作品が含まれている。「アナと雪の女王」は2014年に「アナ雪」として流行したことが大きな要因になっていると思われる。映画上映だけでなく、テレビ放映もされることも影響をしていると考えられる。上位15位にはランクインしなかったけれども、ジブリ系のアニメ映画もいくつかあげられている。小池（2014）の調査では、ディズニーアニメの「塔の上のラプンツェル」「アナと雪の女王」「モンスターズインク」「トイストーリー」に加えて、「進撃の巨人」と「ハイキュー！」が挙げられていなかった。これら6作品が挙げられた理由は、前述の通り、「アナと雪の女王」の映画上映による流行と、「進撃の巨人」「ハイキュー！」のアニメ化が影響していると考えられる。

表4 最近読んだ活字本の反応数

No.	題名	反応数	反応率(%)
1	図書館戦争シリーズ	43	2.35
2	告白	38	2.08
3	ハリーポッターシリーズ	37	2.02
4	永遠の0	35	1.91
5	グッドラック	24	1.31
6	植物図鑑	22	1.20
7	神様のカルテ	20	1.09
8	こころ	18	0.98
9	プラチナデータ	16	0.87
10	ディズニー関連本	16	0.87
11	陽だまりの彼女	14	0.76
12	星の王子さま	14	0.76
13	カラフル	13	0.71
14	一瞬の風になれ	12	0.66
15	リアル鬼ごっこ	11	0.60
総反応数		1,831	
総作品数		911	

表4は、反応数が上位15位までの「活字本作品の題名と反応数」を示している。「活字本」についてみると、総反応数は1,831作品で、総作品数は911作品であった。調査対象者が1,139人であるから、一人平均1.6作品を挙げていることになる。上位15作品で反応率は約18%を占めている。上位15作品で全体の2割弱にしかならないということは、挙げられる作品が人それぞれで多様化していることが原因であると思われる。「マンガ」「アニメ」の総作品数と比べてみても、「活字本」のほうが300～500前後多くなっている。これは同じ作品を挙げていることが少ないためであると思われる。「活字本」における作品に対する興味が拡散している傾向があるのかもしれない。小池（2014）でも指摘されているように、小説の映像化（アニメ化、映画化、ドラマ化など）が影響をしているのかもしれない。上位15作品中「図書館戦争シリーズ」「告白」「ハリーポッターシリー

ズ「永遠の0」など8～9作品が映像化されていることがわかっている。映像化によって原作本を手にとって読む行動につながっているとすれば、映像化は活字離れを抑止する方法のひとつとして考えてみるべきであろう。また、小池（2014）も指摘しているように、今回も「こころ」と「星の王子さま」が上位15位の中に入っていた。この理由については、高等学校の授業等で推奨されているのかもしれない。

「マンガ」「アニメ」「活字本」のそれぞれに対して「読むのが好き」もしくは「見るのが好き」という質問に対して、「とても当てはまる」「やや当てはまる」と答えた評価4以上の回答者群（以下「好む群」とする）と「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」と答えた評価2以下の回答者群（以下「好まない群」とする）の2群に分けて、それぞれについての各作品平均反応数と他2つのものを好むかどうかについて分析した。

表5 「マンガを読むのが好き」を基準とした「アニメを見るのが好き」と「活字本を読むのが好き」の評価と反応

		マンガ（基準）		アニメ		活字本	
		問1	反応数	問7	反応数	問13	反応数
好む群	M	4.63	3.70	3.78	3.05	3.31	1.80
	SD	0.484	1.500	1.170	1.817	1.282	1.782
	N	802	802	802	802	802	802
好まない群	M	1.59	0.95	2.35	2.08	2.21	1.20
	SD	0.492	1.440	1.297	1.951	1.245	1.598
	N	172	172	172	172	172	172

表5に、「マンガを読むのが好き」の質問の答えを基準とした「アニメを見るのが好き」「活字本を読むのが好き」の平均評価ポイントと、「マンガ作品」「アニメ作品」「活字本作品」の平均反応数を示す。「マンガを読むのが好きだ」という質問に対して「当てはまる」と答えた「好む群」は1,139名中802名と約70%を占めていて、平均評価ポイント(SD)は4.63(0.484)、「当てはまらない」と答えた「好まない群」は172名で約15%、平均評価ポイントは1.59(0.492)であった。「好む群」は「好まない群」の5倍弱であることから、大学・短大の学生が「マンガを読むのが好きである」ことがわかる。これは作品の反応数の平均から見ても十分に理解できることである。「好む群」の平均反応数(SD)が3.70(1.500)、「好まない群」では0.95(1.440)、差は2.75でありt検定の結果1%水準で有意な差が認められ($t=22.558$, $p<0.01$, $df=972$)、「好きであるから読み、好きでないから読まない」ということであろう。「アニメを見るのが好き」という質問への平均評価ポイント(SD)は、「好む群」が3.78(1.170)、「好まない群」が2.35(1.297)であった。平均反応数(SD)を見ると、「好む群」が3.05(1.817)、「好まない群」が2.08(1.951)であった。t検定の結果1%水準で有意な差が認められた($t=5.987$, $p<0.01$, $df=972$)。「マンガ」の場合程明らかではないが「マンガを読む」のを好む者たちは「アニメを見る」こともどちらかという好むこと、反対に好まない者たちはどちらかという好まないことが分かる。「マンガ」のアニメ化、映像化がこのことを支持していると思われる。「活字本を読むのが好き」とい

う質問への平均評価ポイント (SD) は、「好む群」が3.31 (1.282)、「好まない群」が2.21 (1.245)であった。平均反応数 (SD) を見ると、「好む群」が1.80 (1.782)、「好まない群」が1.20 (1.598)で、 t 検定の結果1%水準で有意な差が認められた($t=7.099$ 、 $p<0.01$ 、 $df=972$)。この場合も「アニメ」の場合と同様に、「マンガを読むこと」を好む者たちは「活字本」を読むことをどちらかと言うと好むが、好まない者はあまり好まないといえるであろう。母数が多いため、反応数に関して2群間に有意な差が認められたが、0.6という1.0未満の差は、評価ポイントでは好きでも嫌いでもないとか、どちらかというところ好き、としていても、それほど活字本を読んでいないのではないかと思われる。

表6 「アニメを見るのが好き」を基準とした「マンガを読むのが好き」と「活字本を読むのが好き」の評価と反応

		マンガ		アニメ (基準)		活字本	
		問1	反応数	問7	反応数	問13	反応数
好む群	M	4.41	3.54	4.50	3.58	3.36	1.87
	SD	0.967	1.694	0.500	1.593	1.325	1.829
	N	597	597	597	597	597	597
好まない群	M	3.11	2.15	1.54	1.56	2.55	1.32
	SD	1.332	1.807	0.498	1.758	1.275	1.632
	N	292	292	292	292	292	292

表6は、「アニメを見るのが好き」の質問の答えを基準にした「マンガを読むのが好き」「活字本を読むのが好き」の平均評価ポイントと、「マンガ作品」「アニメ作品」「活字本作品」の平均反応数を示している。「アニメを見るのが好き」の質問に対して「当てはまる」と答えた「好む群」は1,139名中597名で約52%を占めていて、平均評価ポイント (SD) は4.50 (0.500)、「当てはまらない」と答えた「好まない群」は292名で約25%、平均評価ポイント (SD) は1.54 (0.498)であった。「好む群」は「好まない群」の約2倍あることから、「アニメ」についても見るのが好きであるといえる。これは反応数の差からも十分に説明できると考えられる。平均反応数 (SD) は「好む群」が3.58 (1.593)、「好まない群」が1.56 (1.758)であり、 t 検定の結果1%水準で有意な差が認められた($t=16.584$ 、 $p<0.01$ 、 $df=887$)。「マンガ」と同じ結果であると考えられる。「マンガを読むのが好き」の質問への平均評価ポイント (SD) は、「好む群」が4.41 (0.967)、「好まない群」が3.11 (1.332)であり、平均反応数 (SD) は「好む群」が3.54 (1.694)、「好まない群」が2.15 (1.807)であった。いずれも t 検定の結果1%水準で有意な差が認められた($t=14.871$ 、 $p<0.01$ 、 $df=887$ ； $t=10.993$ 、 $p<0.01$ 、 $df=887$)。アニメを見るのが好きな者は、マンガを読むのも好きであること、反対に見るのが好きでない者は読むのもあまり好きでないことがわかる。「活字本を読むのが好き」の質問への平均評価ポイント (SD) は「好む群」が3.36 (1.325)、「好まない群」が2.55 (1.275)であり、平均反応数 (SD) は「好む群」が1.87 (1.829)、「好まない群」が1.32 (1.632)であった。いずれも t 検定の結果1%水準で有意な差が認められた($t=8.782$ 、 $p<0.01$ 、 $df=887$ ； $t=4.533$ 、 $p<0.01$ 、 $df=887$)。アニメを見るのが好きな者は、活字本を読

むのがまあ好きであるが、それほどの数の活字本を読んでいるとはいえないと思われる。そうでない者は、活字本を読むのもそれほど好きでないのだからそれほどの活字本を読んでいないと思われる。この傾向は「マンガ」の傾向とほぼ同じであると考えられる。

表7 「活字本を読むのが好き」を基準とした「アニメを見るのが好き」と「マンガを読むのが好き」の評価と反応

		マンガ		アニメ		活字本（基準）	
		問1	反応数	問7	反応数	問13	反応数
好む群	M	4.40	3.62	3.84	3.15	4.41	2.72
	SD	0.975	1.643	1.235	1.819	0.493	1.772
	N	458	458	458	458	458	458
好まない群	M	3.40	2.30	2.96	2.50	1.48	0.59
	SD	1.347	1.872	1.321	1.927	0.499	1.091
	N	403	403	403	403	403	403

表7は、「活字本を読むのが好き」の質問の答えを基準にした「マンガを読むのが好き」「アニメを見るのが好き」の平均評価ポイントと、「マンガ作品」「アニメ作品」「活字本作品」の平均反応数を示している。「活字本を読むのが好き」の質問に対して「当てはまる」と答えた「好む群」は1,139名中458名で約40%を占めていて、平均評価ポイント (SD) は4.41 (0.493)、「当てはまらない」と答えた「好まない群」は403名で約35%、平均評価ポイント (SD) は1.48 (0.499) であった。「好む群」と「好まない群」の差は約5%とほぼ拮抗しているから、活字本を読むのが好きな者と好きでない者とどちらでもない者がほぼ同じくらい存在していることを示している。これは「マンガ」「アニメ」と異なる傾向であろう。高校生までに活字本を読む習慣がどれくらい出来ているかを表しているのかもしれない。平均反応数 (SD) は「好む群」が2.72 (1.772)、「好まない群」が0.59 (1.091) であり、 t 検定の結果1%水準で有意な差が認められた ($t=21.506$, $p<0.01$, $df=859$)。活字本を読むことを好む者は約3冊の活字本を読んでいるが、そうでない者は、読んだ活字本が1冊にも達していない。「マンガ」「アニメ」と同じように、好きな者は読む (見る) が好きでない者は読まない (見ない) ことをはっきりと示している。これは単なる活字離れというよりも、活字本を読む習慣の問題かもしれない。「マンガを読むのが好き」の質問への平均評価ポイント (SD) は、「好む群」が4.40 (0.975)、「好まない群」が3.40 (1.347) であり、平均反応数 (SD) は「好む群」が3.62 (1.643)、「好まない群」が2.30 (1.872) であった。いずれも t 検定の結果1%水準で有意な差が認められた ($t=12.330$, $p<0.01$, $df=859$; $t=10.928$, $p<0.01$, $df=859$)。「好む群」はマンガを読むのをとても好み、「好まない群」もマンガを読むのはまあ好きであると考えられる。これは平均反応数が「好まない群」では活字本の平均反応数が0.59であるのに、マンガでは2.30と4倍弱になっていることから支持されるであろう。同様のことは「アニメを見るのが好き」でもいえるだろう。「アニメを見るのが好き」の質問への平均評価ポイント (SD) は、「好む群」が3.84 (1.235)、「好まない群」が2.96 (1.321) であり、平均反応数 (SD) は「好む群」が3.15 (1.819)、「好まない群」が2.50 (1.927) であった。いずれも t 検定の結果1%

水準で有意な差が認められた ($t=10.05$, $p<0.01$, $df=859$; $t=5.090$, $p<0.01$, $df=859$)。

「好む群」はアニメを見るのを好むが、「好まない群」はどちらでもないと考えていると思われる。しかし、平均反応数を見ると、「好まない群」は活字本の約4倍の反応数を出しているので、意外と見ていることがわかり、本人達の意識とのずれが生じているように思われる。これについてはさらなる調査検討が必要であると思われる。

全体的に見ると、「マンガを読むのが好き」と認めている者は、アニメを見るのが好きで、活字本を読むことはどちらかという好きかなという感じであり、そうでない者は、「アニメを見る」のも「活字本を読む」のもあまり好きでないことがわかった。「アニメを見るのが好き」と認めている者は、マンガを読むのが好きで、活字本を読むことはどちらかという好きかなという感じであり、そうでない者は、「マンガを読む」のは好き嫌いのどちらともいえず、「活字本を読む」のはあまり好きでないことがわかった。「活字本を読むのが好き」と認めている者は、「マンガを読む」のも「アニメを見る」のも好きであり、そうでない者は、「マンガを読む」のはどちらかという好きかなという感じであり、「アニメを見る」のはどちらともいえないことがわかった。「マンガ好き→活字本好き」ではなく、「活字本好き→マンガ好き」というふうを考えるのが良いのかもしれない。

小池 (2014) の結果と今回の結果を比べてみると、全体的には同様の結果が導き出された。大学・短大の学生は、半数から半数以上の者が「マンガを読む」と「アニメを見る」ことが好きであると認めていること、「活字本を読む」ことが好きであると認めている者が約40%であることがわかった。前回の結果では約35%であったものが約40%と5%ほど上がったことは、大学生の活字離れが多少は緩和されてきたのかもしれないが、さらなる調査研究が必要と思われる。

1. 小池庸生 大学生における「マンガ」「アニメ」「活字の単行本」の利用状況の基本調査 育英短期大学研究紀要、第31号、p.113-123、2014
2. このマンガがすごい! 編集部編 「このマンガがすごい! 2015」宝島社、2014
3. このマンガがすごい! 編集部編 「このマンガがすごい! 2014」宝島社、2013
4. このマンガがすごい! 編集部編 「このマンガがすごい! 2013」宝島社、2012

(2016年2月10日受理)